

都城市立明道小学校 令和6年度 学校評価報告書
～学校自己評価及び学校関係者評価～

	質問項目 () の表記は児童への質問	児童	保護者	職員	自己 評価	考察	学校関係者評価	
							意見	評価
学力の 向上	①「ひなたの学び」「わさびの授業」の実現に向け、授業改善を行っている。	3.5	3.3	3.0	3.1	○ 学級づくりを基盤とした授業づくりを進めてきた。リーディングD X事業への取組の中で、ひなた（わさび）の学びの実現に向け、模擬授業・研究授業等を行いながら研修を行ってきた。 ○ 学校が「とても楽しい」「まあまあ楽しい」と答えた児童の割合（94.5％）は高い。しかし、残りの児童は何かしらの不安を抱えており、支援が必要である。 ○ 各担任が単元テストで目標を設定して取り組んだ。1 1 月末現在8割を超す単元が多いが、算数科の思考・判断・表現力の向上が課題である。 ○ 図書館サポーターの提案を受け、読書活動の充実に取り組んできたが、個人差が大きく目標とする年間読書冊数には到達できていない。今後も家庭を巻き込んだ読書啓発活動を行いたい。	○ I C Tを利用しての授業を見る度に授業の中で生かされているように感じる。それが学力や知識に結びつき、豊かな人間性につながって欲しい。 ○ 図書の本を持って帰って読む児童は少ないと思われる。（習い事や塾など高学年ほど難しいのでは）ゆとりがないのも現実である。 ○ これからも読書意欲を高めていただくことをお願いしたい。（姫城地区社協からも図書費寄贈で協力） ○ リーディングD Xの授業をテレビで見たが、上手に端末を扱っており驚いた。 ○ 安心して過ごせる居場所、学びを深める本校の教育の営みを更に期待したい。	3.6
	②児童が安心して学べる心理的安全性の高い学級づくりに努めている。 <u>（学校に楽しく登校している）</u>			3.2				
	③学力を高めるために様々な手立てをとっている。 <u>（授業の内容はよく分かる）</u>	3.5	3.1	2.7				
	④児童は進んで読書をしている。	3.1	2.6	3.1				
	⑤主題研究で話題になったことを、自分の授業改善につなげている。	3.3		3.0				
命と心の教育	⑥児童は無言の場（給食時間、移動、放送、集会、掃除）を実践している。	3.3		2.8	3.1	○ 本年度は無言の場の徹底を目標に取り組んできた。給食や掃除は無言での活動ができているが、教室移動時にできていない状況が見られた。 ○ 児童玄関前での朝の挨拶や校内での会釈はよくできているが、見守り隊や保護者からは挨拶がもう少しという声が届いた。 ○ 友達に優しく接する場面が数多く見られ、人や環境のことを考えた行動がとれる児童は多い。また、友達と仲良く過ごしていると答えた割合は（92％）である。今後も「いじめ解決1 0 0％」を目指していきたい ○ 下校時や帰宅後の過ごし方に課題が見られ、地域からも連絡があった。今後も家庭・地域に啓発しながら、子どもたちの安心・安全な過ごし方をサポートする必要がある。 ○ 早寝・早起き・朝ご飯・手洗い・バランスのとれた食事等は、健康な生活を営む上での基本である。養護教諭や栄養教諭による授業や掲示物等を活用し、児童・家庭の意識高揚を目指したい。	○ 学校の落ち着きは、登校する子どもたちの様子から伝わってくる。登校時刻に遅れることなく楽しく学校へ向かう姿はそのものである。 ○ 登校時に挨拶をしても返事がなかったり、声が小さかったりする。 ○ 子どもたちのトラブルに注意をした。最近子ども同士で解決する様子も見られ、ほほえましい。 ○ スマホ等を持っている子が多くなり、それが夜更かしにつながっているせいか、放課後の児童クラブで眠ってしまう子がいる。自宅での過ごし方について、家庭でもしっかり考えていく必要があると思う。 ○ 家庭での様子は把握しづらい面があるが、保護者との関係強化が大事である。 ○ 朝ご飯を食べていない子どもたちが気になる（育ち盛りなので）。 ○ 児童の体力・運動能力低下の要因と考えられているスクリーンタイムの増加は大きな課題。教育関係者は対策を取っていききたい。	3.4
	⑦児童は笑顔の挨拶やボランティア活動（人助けや環境美化等を含む）に進んで取り組んでいる。	3.3	2.7	2.8				
	⑧児童との対話を心がけ、児童の望ましい言動を称賛している。 <u>（言葉遣いに気を付け、友達と仲良くしている）</u>	3.5	2.9	3.3				
	⑨児童は体育科の授業に一生懸命取り組んだり、外で元気よく遊んだりしている。	3.6	3.0	3.1				
	⑩児童は早寝・早起き・朝ご飯・手洗いなどが身に付いている。	3.3	2.9	2.9				
	⑪児童は好き嫌いなく給食を食べている。	3.3	2.9	3.0				
特別支援教育の充実	⑫一人一人の個性に応じ、学習の手立てを工夫したり、言葉をかけたりしている。 <u>（先生達は、困っているとき助けてくれたり、言葉をかけたりしてくれる）</u>	3.6	3.3	3.0	3.3	○ 教師による言葉かけ、活動のサポートがよかったと感じている児童は96.3％で個に応じた支援は効果的であったと言える。今後も、子どもたちの安心な学校生活を目指したい。 ○ 専科制や交換授業制には職員間の連携が不可欠である。勤務態様（勤務日や勤務時間）が揃っていない難しさはあるが今後も連携・協力していきたい。 ○ 学級の問題や保護者からの要望には丁寧に対応してきた（保護者の評価率88.8％）。しかし、保護者との合意形成が難しい事案や児童が同じことを繰り返してしまう事案もあった。 ○ 関係機関と連携して相談に当たってきたが、病院受診に数か月を要することもあり、対応に苦慮している。	○ 特別支援教育に対して、保護者のサポートや教師間の連携も大切だと感じる。対応に苦慮されることもあると思うが、関係機関との連携を含め、専門のスタッフの充実も考えていきたい。 ○ 通級指導等が細やかにされており、学習面や精神面で不安に感じている子どもたちが安心して学ぶ環境が整っている。担任と専門的立場の先生方の連携がとれていると感じる。 ○ 子ども一人一人は違う。大変でしょうが頑張ってください。 ○ 児童への声かけや保護者への要望に対応してくださり、ありがたい。 ○ 特別支援学級の増加は、特別支援教育の目的・原点を改めて考える契機となる。関係機関との連携を図りたい。	3.8
	⑬交流学級担任や専科指導、特別支援学級、通級指導、各担当等と共通理解を図り、連携・協力している。			3.3				
	⑭保護者の心情に寄り添い、相談にのっている。			3.4				
	⑮関係機関と連携・協力して指導に当たっている。			3.3				
地域に開かれた学校づくり	⑯HP や学級（学校）通信等を通じ、児童のよさや学校の様子を保護者に伝えている。			3.4	3.2	○ 学校の出来事や児童の様子を随時発信した。本年度は、地域の方にもシグフィーに登録していただき情報を発信（紙と併用）できている。 ○ 本年度も見守り活動や福祉体験、読み聞かせ、学習支援等に協力していただいた。児童・教師から大変好評で、今後も継続していきたい。ただ、児童にとっては、地域のよさに目を向けるところまでには至っていない。 ○ P T A活動に係るアンケートを実施し、今後組織再編を行う予定。執行部と連携し、保護者が主体的に関わる活動を模索中である。	○ 学校の行事・当日の予定変更、学校便りなどが、シグフィーを用いたり、民生委員間で共有したりしながらカラーで送られてくるので良かった。 ○ 地域行事への参加要請は、子ども会にも声かけをして、地域との交流が生まれるようにする。六月灯、敬老会、島津発祥まつり等、大人になってからも参加できて良かったと思える。 ○ 地域としても土曜学習のプレゼントやカレー食事会等続けていきたい。	3.5
	⑰児童とボランティア（見守り隊、読み聞かせ、南九大生、地域住民、他ゲストティーチャー）が協働する活動の場（講師として迎えた授業も含む）を設定している。 <u>（地域の祭り等に参加し、地域のよさを見つけた）</u>	3.1	3.1	3.0				
働き方改革	⑱グーグルアプリ（ポータルサイト・チャット・フォーム等）やシグフィーの活用等は、業務改革につながっている。			3.3	3.3	○ リーディングD X事業を通して、業務改革を目指した。担当者の業務過多は否めないが、全体的に見ると改善につながっている。 ○ 職員の意識は高く、「できている」「ほぼできている」を合わせると100％である。今後も校務の見直しを進めながら、全職員のウェルビーングに努め、児童の充実した学校生活につなげたい。	○ 先生方が日々努力を重ねられていることが素晴らしい。その中で、少しでも先生方の負担がなくなればと思う。 ○ 先生方の児童に対する接し方には頭が下がる。お身体に気をつけていただきたい。 ○ 様々な工夫がされ成果が伺える。行政と連携した「ヒト」の確保が必要。	3.7
	⑲職員の健康や育児、介護等をお互いに理解し、フォローする体制ができている。			3.4				